

Scope Position の凍結事象—長距離 Wh 要素移動の場合

La congelación de posiciones de ámbito (scope positions)

— en el caso del movimiento largo de CU en español — *

石岡 精三

Seizo ISHIOKA

0. はじめに

(1) と (2) で示されるように、英語における Pair-List (ペア列挙) の読みは普遍数量詞 (universal quantifier) 表現と Wh 要素が一定の構造条件を満たす場合に可能となる。(1a) に対応するスペイン語用例 (3a) においても、この Pair-List の解釈が許される。(2a) に対応するスペイン語用例 (4) は、異なる話者グループの存在を物語る。Jaeggli (1991) が属すグループでは、英語と同様の挙動が観察され、この場合の Pair-List の読みは排除される (これを Aグループと呼ぶ)。Gutiérrez Rexach (1995) が属す Bグループでは、Pair-List の解釈が許容される。

(1) a. Who does everyone like?

b. Professor Smith (individual answer)

c. Bill likes professor Smith, Susie likes professor Jones,... (Pair-List answer)

(2) a. Who likes everyone?

b. Susie (individual answer)

c. *Professor Smith likes Mary, professor Jones likes Susie,... (Pair-List answer)

(3) a. ¿A quién examinó cada doctor? [^{*}Pair-List] (Jaeggli 1991: (10a); Gutiérrez Rexach 1995: (7a))

'Whom did every doctor examine?'

b. El doctor López examinó al paciente 1, el doctor García a los pacientes 2 y 3 (Gutiérrez Rexach 1995: (8))

'Dr. López examined patient number 1, Dr. García patients number 2 and 3'

(4) a. ¿Quién examinó a cada paciente? [^{*}Pair-List] (Jaeggli 1991: (10b))

'Who examined every patient?'

b. ¿Quién arrestó a cada delincuente? [^{*}Pair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (9b))

'Who arrested every criminal?'

Minimalist Program に基づく本稿において、(4) で確認された相違は、Spec(v) で併合 (merge) の適用を受ける Wh 要素の作用域位置 (scope position, SP) が凍結すると考えることにより説明される。さらに、SP の凍結が主語以外の Wh 要素に対しても想定可能であることが示される。本稿は、以下のように構成される。第 1 節では、数量詞に付与される作用域 (scope) の決定プロセスと、Wh が短距離移動する上の (1) から (4) を説明する論法が提示される。第 2 節では、Wh 要素が長距離移動する用例においても、Wh 要素に関する SP の凍結が想定可能であると示される。結びとなる第 3 節では、本稿の仮説に対して問題を惹起すると思われる用例を検討し、それに対する打開策が提示される。

1. 作用域位置 (scope position, SP) と Pair-List の読み

Minimalist Program に基づく本稿では、数量詞繰り上げを想定することはできない。Hornstein (1999) と同様に、作用域 (scope) が LF 構造に基づいて決定されると考える。例えば (5) にあるように、主

語である数量詞 (*someone*) は、vP 内部に基底生成され、Spec(AgrS) へ統語移動する。目的語の数量詞 (*every seminar*) は、基底生成された位置から Spec(AgrDO) へ LF 移動する。基底生成された位置、主語要素が移動する Spec(AgrS)、直接目的語が移動する Spec(AgrDO) などが SP を構成する。移動によって生じたコピーは、一つを除きすべて削除されると想定されている。(5b-d) では、主語数量詞 (*someone*) が目的語数量詞 (*everyone*) よりも広い作用域をもつ。これは、前者の SP が後者の SP を C 統御するためである。(5e) では、目的語数量詞 (*everyone*) の SP が主語数量詞 (*someone*) の SP を C 統御するため、目的語数量詞が主語数量よりも広い作用域をもつ。¹⁾

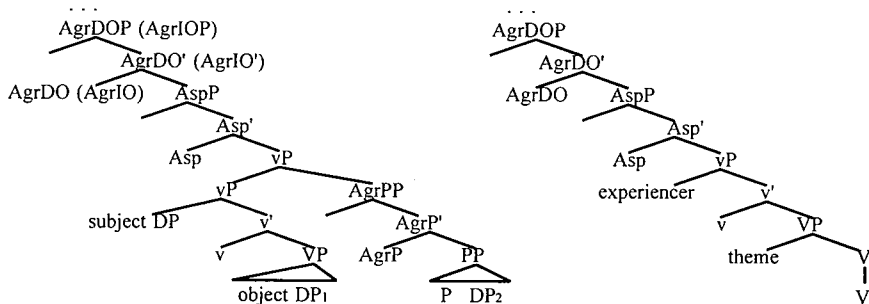
- (5) a. Someone attended every seminar. (Hornstein 1999)
- b. [AgrSP someone [TP T [AgrDOP every seminar [vP (someone) [vP attended (every seminar)]]]]]
- c. [AgrSP someone [TP T [AgrDOP (every seminar) [vP (someone) [vP attended every seminar]]]]]
- d. [AgrSP (someone) [TP T [AgrDOP (every seminar) [vP someone [vP attended every seminar]]]]]
- someone > every seminar
- e. [AgrSP (someone) [TP T [AgrDOP every seminar [vP someone [vP attended (every seminar)]]]]]
- someone < every seminar

英語の与格構文 (Dative Constructions) での作用域関係もまた、SP 間の C 統御関係により説明される。直接目的語数量詞 (*someone*) の作用域が前置詞句である間接目的語数量詞 (*everyone*) のそれよりも広い解釈と、作用域関係が逆転した解釈も可能である。

- (6) I read something to everyone (Stroik 1996: 45, (34b)) X (something > everyone) Y (something < everyone)

これは、Hornstein (1995: 175-176) が提唱する構造 (7a) を想定することにより説明可能となる。与格を構成する前置詞の目的語 (DP2) は、照合 (Checking) に参加するために当該前置詞句の直接上位に生成された Agr の Spec 位置へ移動すると考える。この機能的範疇 Agr は AgrP と呼ばれ、その最大投射は vP に右方付加した位置に生成される ((7b) は、後述する心理動詞構文の構造を示す)。

- (7a) Structure of Dative Constructions (7b) Structure of Psychological Verb Constructions



(6X) の作用域関係は、DP1 の SP である Spec(AgrDO) が DP2 の SP である基底生成された位置、あるいは Spec(AgrP) を C 統御することにより説明される。(6Y) の作用域関係は、Spec(AgrP) の位置が DP1 の生成位置を C 統御することにより説明される。DP2 の生成位置が Spec(AgrDO) と DP1

の生成位置を C 統御することはない (AgrP が機能的範疇と想定されている点に留意されたい)。

ここで、(8) の仮説を想定する。これは、普遍数量詞の SP が Wh 要素の SP を C 統御する派生が存在する場合に限り Pair-List の読みが許容される旨の仮説である。(9a-b) の双方に対する Pair-List の解釈が可能となる。これは、(7a) における間接目的語 (IO) に対応する前置詞句 (PP) が直接目的語 (DO) の生成位置を C 統御し、同時に Spec(AgrDO) が PP を C 統御するためである (AgrIO の投射は AgrDO の直接上位に生成されると想定されている点に留意されたい (23))。

- (8) Hypothesis for scope interaction between a wh-phrase and a universal quantifier:
Pair-List reading obtains when one of an *every*-NP quantifier's scope positions c-commands
one of a wh-phrase's scope positions.

(9) a. ¿A quién entregó María cada regalo? [^uPair-List] (Jaeggli 1988: (16a))
'To whom did María give every gift?'

b. ¿Qué nota le otorgó el profesor a cada estudiante? [^uPair-List] (Jaeggli 1988: (16b))
'What grade did the professor give to every student?'

(7a) において、主語要素の生成位置 (Spec(v)) は PP と DO の生成位置を C 統御し、同時に PP と Spec(AgrDO) によって C 統御される。これにより、(10a-d) における Pair-List の解釈が可能となる。

(10) a. ¿Quién dio cada regalo a una señora? [^uPair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (16a))
'Who gave each gift to a lady?'

b. ¿Qué dio cada cliente a un cajero? [^uPair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (17a))
'What did each client give to a clerk?'

c. ¿Quién dio un regalo a cada señora? [^uPair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (15a))
'Who gave a gift to each lady?'

d. ¿A quién (le) dio cada cliente un regalo? [^uPair-List]
'To whom did each client a gift?'

場所・時間を表す付加語が vP に付加した位置に生成されると考えた場合、当該付加語の生成位置が主語要素の生成位置 (Spec(v)) を C 統御することになる。同時に、Spec(v) 位置が当該付加語の生成位置を C 統御する。つまり、以下の(11a-b)における Pair-List の読みが予測されることになる。

(11) a. ¿Qué chico compra un periódico cada mañana? [^uPair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (14a))
'Which boy buys a newspaper every morning?'

b. ¿Cuándo compra cada chico un periódico? [^uPair-List]
'When does every boy buy a newspaper?'

Jaeggli が属すAグループと Gutiérrez Rexach が属すBグループの双方において、仮説 (8) は、(9) から (11) の用例を適切に説明する。(3) と (4a-b) においても、Pair-List の読みが許容されると予測されることになる。これは、(3) の主語数量詞の生成位置が DO Wh の生成位置を C 統御し、(4) の DO 数量詞に対応する Spec(AgrDO) が主語 Wh 要素の生成位置を C 統御するためである。この予測に反して、Aグループの用例としての (4a) における Pair-List の解釈は排除される。同じ問題は、(12) の非能格動詞と (13) の非対格動詞の用例でも観察される。(12) と (13) における PP が vP に付加し

た位置に生成されると考える。その場合、(12a-b) と (13a-b) の双方において、Pair-List の読みが許容されると予測される。しかし、Aグループの (12a) と (13a) では、Pair-List の読みが排除される。

- (12) a. ¿Quién habló en cada conferencia de este año? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (13a))
 'Who spoke in every conference this year?'
 b. ¿En qué conferencia habló cada profesor? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (14a))
 'In which conference did every professor speak?'
 (13) a. ¿Quién llegó de cada ciudad que conoce María? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (15a))
 'Who arrived from every city that Maria knows?'
 b. ¿De qué ciudad que conoce María llegó cada turista? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (16a))
 'From which city that Maria knows did every tourist arrive?'

Jaeggli (1988: 119) も指摘しているように、主語 Wh 要素が統語移動する派生において問題が惹起する点に留意する必要がある。この問題は、Aグループに対して仮説 (14) を想定することにより打開されるであろう。この仮説は、主語 Wh 要素の生成位置が SP として機能しないことを意味する (後述するように、当該 Wh 要素の終着地点 (CI の上位にある wh/Q の Spec 位置) が SP として機能する)。これにより、問題が惹起する Aグループの用例すべてにおいて、Pair-List の読みが排除されることになる。例えば (12a) において、普遍数量詞である PP (*en cada conferencia de este año*) は、Spec(v) 位置で併合が適用される (当該位置に基底生成される) 主語 Wh 要素 (*quién*) の SP である Spec(wh/Q) を C 統御することはない。VP 内部に生成される非対格動詞の主語要素は v の EPP 素性を照合するため、Spec(v) 位置へ移動し併合 (merge) の適用を受ける。(13a) に対して仮説 (14) が適用され、Pair-List の読みが排除されることになる。(12b) と (13b) においては、Pair-List の読みが予測される。

- (14) Hypothesis for Jaeggli (1988, 1991) (A-Type Freezing of a wh-phrase's SP's): 2)
 In scope interaction between a universal quantifier and a wh-phrase, all the SP's but its final landing site of a wh-phrase base-generated (merged) in Spec(v) are frozen (*scilicet*, cannot be counted as a SP).
 仮説 (14) は、心理動詞の用例である(15) をも適切に説明するものである (Bグループでは、(15a-b) に対応する用例の双方において、Pair-List の解釈が許容される)。

- (15) a. ¿A quién le molesta cada canción que tocan por la radio? A: [*Pair-List]/ B: [okPair-List]
 'Who does every song that they play on the radio bother?' (Jaeggli 1988: (18b))
 b. ¿Qué canción de los Beatles le molesta a cada adulto que conoces? A: [okPair-List]/ B: [*Pair-List]
 'Which song by the Beatles bothers every adult that you know?' (Jaeggli 1988: (17b))

Franco and Huidobro (2003) と同様に、スペイン語の心理動詞の構造として (7b) を想定する。同様に、心理動詞構文における主題要素が vP 外部へ移動すると考える。この移動先として、Spec(Asp) を想定する (Franco and Huidobro 2003: 146)。この Spec(Asp) 位置が主題要素の SP にカウントされると考える。経験者要素の生成位置が主題要素の生成位置を C 統御するため、(15b) における Pair-List の解釈が許容される (AとBの両グループにおいて)。Aグループでは、Spec(v) に生成される経験者 Wh

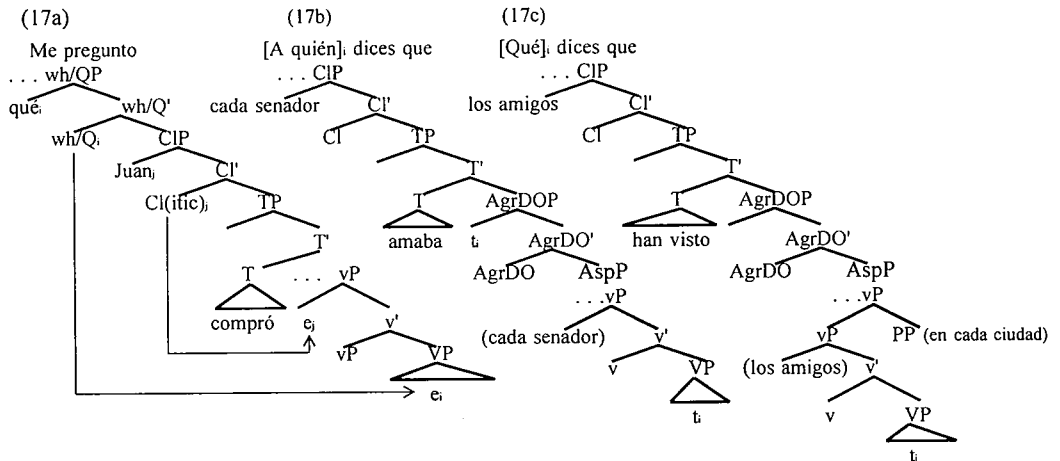
要素が SP を構成しない。結果として、主題数量詞表現の SP (Spec(Asp)) が経験者 Wh 要素の SP (その最終着地点) を C 統御することはない。(15a) に対する Pair-List の読みが排除される。仮説 (14) が適用されない B グループでは、Pair-List の読みが許容されることになる。

2. 主語・動詞倒置と長距離 Wh 要素移動における SP の凍結事象

ここで、(16a) の非文性について考える。(17a) で示されるように、Zubizarreta (2001) は、V の項要素 (主語と目的語) がその Spec 位置に基底生成される Cl(itic) の投射と Wh 要素がその Spec 位置へ移動する wh/Q の投射を想定する (スペイン語では、Q 素性と Wh 素性が Wh/Q に融合していると想定される)。Spec-Head Agreement により、その Spec 位置に生成される主語要素 (*Juan*) と同一の指標をもつ Cl が Spec(v) にある変項 (variable) を束縛する。Cl が統語的演算子 (syntactic operator) として機能する。Wh 要素 (*qué*) と同一の指標をもつ wh/Q もまた、VP 内部の変項を束縛することになる。しかし、wh/Q による束縛は最小原理 (minimality) によって排除される (e_i を C 統御し、wh/Q を C 統御しない潜在的な束縛要素 Cl が介在する)。主語要素が Spec(v) に生成される (16b) は、この最小原理によって排除されることはない。

(16) a. *Me pregunto **qué Juan compró** ayer. (Zubizarreta 2001: (36a))

b. Me pregunto **qué compró Juan** ayer. 'I wonder what Juan bought yesterday.'



顕在的な主語要素が生成される Spec(Cl) が、Spec(wh/Q) と同様に SP を構成すると考える。その場合、(18a-b) が共に Pair-List の読みを許容すると予測される (派生構造 (17b))。付加語要素 (*en cada ciudad*) が vP に右方付加した位置に生成されると考えると、(19a-b) が Pair-List の読みを許容すると予測される (派生構造 (17c))。しかし、(18a) と (19b) における Pair-List の解釈は排除される。

(18) (Martín 2003: (4a); (4b)) (for α Group and β Group)

a. ¿[A quién] dices que cada senador amaba t_i ? [~~*Pair-List~~]

b. ¿[A quién] dices que amaba cada senador t_i ? [~~*Pair-List~~]

'Who do you say that each senator loved?'

(19) (Uribe-Etxebarria 1992: (24); (44)) (for α Group and β Group)

a.¿[Qué] dices [CP que los amigos han visto t_i en cada ciudad]? [^{*}Pair-List]

b.¿[Qué] dices [CP que han visto los amigos t_i en cada ciudad]? [^{*}Pair-List]

'What do you say that the friends saw in each city?'

構造 (17c) における主語要素がその生成位置にある場合, VP 内部にある Wh 要素 (*que*) の原初痕跡 (t) が SP として機能しないと考えてみよう (当該 SP が凍結する)。Asp が語彙的範疇であるため, PP (*en cada ciudad*) の生成位置が当該 Wh 要素の SP (その最終着地点と Spec(AgrDO)) を C 統御しない ((19b) における Pair-List の読みが排除される)。ここで, SP の凍結 (20) を想定する。これは, その Spec 位置に主語である普遍数量詞が生成される Clitic の投射 (Clitic') と, その Spec 位置に数量詞でない *pro* を含む主語要素が生成される *v* の投射 (*v'*) に支配された Wh 要素の SP がその作用域位置としての機能を失うことを意味する。(19a) における Spec(Cl) に生成されるのは普遍数量詞でない。Spec(*v*) に生成されるのは Cl に束縛される変項であって DP でない。つまり, (20) が適用されず, Cl' と *v'* に支配される Wh 要素の SP が凍結することはない。普遍数量詞である PP が DO Wh 要素の SP (その生成位置) を C 統御するため, Pair-List の読みが可能となる。Spec(Cl) に普遍数量詞が生成される (18a) においては, Cl' に支配された Wh 要素 (*a quién*) の SP (その生成位置と Spec(AgrDO)) がすべて凍結する。普遍数量詞の SP が Wh 要素の SP を C 統御しないため, Pair-List の解釈は排除されることになる。普遍数量詞が Spec(*v*) に生成される (18b) では SP の凍結が適用されないため, Pair-List の読みが許容される。

(20) B-Type Freezing of a Wh-phrase's Scope Position (for a long wh-movement):

In scope interaction between a universal quantifier and a wh-phrase, a subject universal quantifier merged in Spec(Cl) and a non-quantifier subject DP (including *pro* in its base position (Spec(*v*))) will freeze the other wh-phrase's SP's dominated by Cl' and *v'*, respectively.

Wh 要素が短距離移動する本稿の用例 (9) が示すように, スペイン語の DO と IO の SP は, お互いに C 統御の関係にある ((9a-b) において, Pair-List の読みが許容される)。これは, (7a) における IO に対応する前置詞句 (PP) が DO の生成位置 (あるいは Spec(AgrDO)) を C 統御し, 同時に Spec(AgrDO) が PP を C 統御するためである。(20) は, (21a-b) と (22a-b) のすべてにおける Pair-List の読みを予測する。(21b) の派生構造 (23a) において, DO Wh 要素 (*qué*) に対応する VP 内の原初痕跡 (t) が占める SP が凍結する。Spec(AgrIO) が Spec(AgrDO) を C 統御するため, Pair-List の読みが許容される。(22b) に対応する構造 (23b) でも, Pair-List の読みが許容される。これは, Spec(AgrDO) が IO Wh 要素 (*a quién*) の原初痕跡 (t) の位置 (あるいは Spec(AgrIO)) を C 統御するためである。

(21) (Uribe-Etxebarria 1992: fn.78, (ia); (ib))

a.¿[Qué] dices [CP que Pedro ha dado t_i a cada amigo]? α : [^{*}Pair-List] / β : [^{*}Pair-List]

b.¿[Qué] dices [CP que ha dado Pedro t_i a cada amigo]? α : [^{*}Pair-List] / β : [^{*}Pair-List]

'What do you say that Peter gave to each friend?'

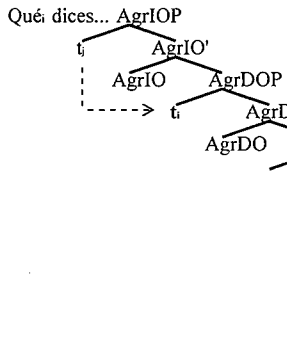
(22) (Uribe-Etxebarria 1992: fn.78, (iia); (iib))

a.¿[A quién] dices [CP que Pedro (le_i) ha dado cada libro t_i]? α: [^αPair-List] / β: [^βPair-List]

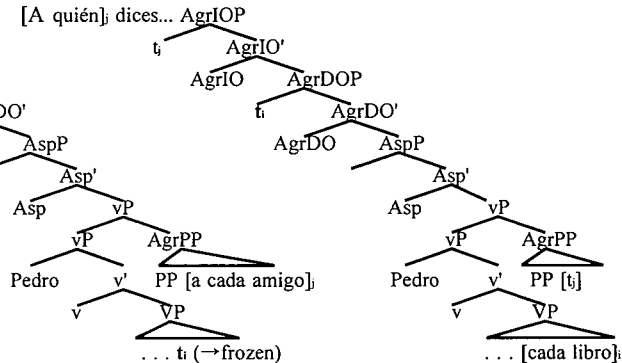
b.¿[A quién] dices [CP que (le_i) ha dado Pedro cada libro t_i]? α: [^αPair-List] / β: [^β*Pair-List]

'Whom do you say that Peter gave each book to?'

(23a)



(23b)



αグループにおいて、この予測は例証される。しかしながら、構造 (23a) と (23b) のそれぞれに対応する用例 (21b) と (22b) における Pair-List の解釈が排除される話者グループ (βグループ) の存在が確認される。βグループが惹起する問題は、長距離 Wh 要素移動の与格構文における Spec(AgrDO) が SP として機能しないと考えることによって説明されると思われる。その Spec 位置に顕在的な要素 (あるいは *pro*) が生成される v の投射 (v') に支配される DO に対応する Spec(AgrDO) がその SP としての機能を失うと考えてみよう (この Spec(AgrDO) に関する SP としての機能凍結が短距離 Wh 要素移動では適用されない点については、稿を改めて検討する)。この前提の下では、(23a) の SP 位置 (Wh 要素 (*qué*) の生成位置と Spec(AgrDO)) が凍結するため、普遍数量詞 (*a cada amigo*) の SP が Wh 要素 (*qué*) の SP を C 統御することはない。(23b) においても、DO 普遍数量詞 (*cada libro*) の SP が IO Wh 要素 (*a quién*) の SP を C 統御することはない。つまり、βグループの用例としての (21b) と (22b) での Pair-List の読みが排除されることになる。

仮説 (20) にあるように、主語である普遍数量詞がその Spec 位置に生成されることにより演算子 (operator) として機能する範疇 (CI) は、共起する Wh 要素の作用域位置 (SP) の中で当該 CI' に支配される SP を凍結させる (これは、演算子として機能する X⁰ 範疇によって引き起こされる凍結である)。ここで、その Spec 位置に抽象的な演算子が生起する X⁰ 範疇の投射 (X') に対しても同様の凍結事象を想定してみよう (当該 X' に支配された位置にある Wh 要素と存在数量詞の SP が凍結すると想定する)。Spec(Neg) に演算子が生起すると考える (Hornstein 1995: 168)。Neg の投射が T と CI の間 (つまり、AgrDO よりも上位) に生成されると想定する。Neg' に支配された位置にある SP が凍結することになる。(24a) の作用域関係は曖昧である一方で、(24b) では、A の作用域関係のみが許容される。これは、Neg' に支配された位置にある主語存在数量詞 (*someone*) の SP (その生成位置

(Spec(v)) が凍結するためである。つまり、普遍数量詞 (*everyone*) の SP が存在数量詞 (*someone*) の SP を C 統御することはない ((24b) の作用域関係 A のみが導出されることになる)。³⁾

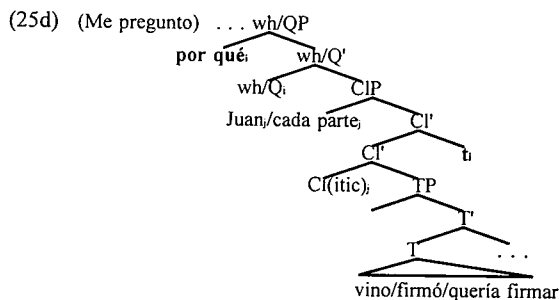
- (24) a. Someone loves everyone. A: **someone** > **everyone**, B: **someone** < **everyone**
 b. Someone does not love everyone. A: **someone** > **everyone**, B: ***someone** < **everyone**
 c. ¿A quién no dijiste [_{CP2} que amaba cada senador]? [*PL] (Martín 2003: (23c))
 ‘Whom didn’t you say that each senator loved?’
 d. ¿A quién te preguntas [_{CP2} si amaba cada senador]? [*PL] (Martín 2003: (23a))
 ‘Whom do you wonder if each senator loved?’
 e. ¿A quién te sientes [_{CP2} que amara cada senador]? [*PL] (Martín 2003: (23b))
 ‘Whom do you regret that each senator loved?’

(24c) の CP₂ 内部にある Wh 要素 (*a quién*) の SP はすべて凍結する。普遍数量詞 (*cada senador*) の SP が Wh 要素 (*a quién*) の SP を C 統御することはない (Pair-List の解釈が排除される)。Wh 島の用例である (24d) と叙述の島 (factive island) の用例である (24e) における Spec(C₂) 位置にそれぞれ抽象的演算子である疑問空演算子と叙述性 (factivity) の解釈に関わる演算子が生起すると考えると、当該用例における Pair-List の読みもまた排除されることになる。

3. 結び (付加語 Wh 要素 (*por qué*) の問題点)

通常、付加語 Wh 要素 (*por qué*) は、Spec(C) (本稿の枠組みでは、Spec(Wh/Q)) 位置に生成されると考えられている (Rizzi 1990)。この前提の下で、本稿の仮説群は、以下の (25b-c) における Pair-List の読みを排除することになる。これは、語彙的範疇である Cl の Spec 位置に生成される主語普遍数量詞が当該付加語 Wh 要素の生成位置 (Spec(Wh/Q)) を C 統御しないためである。しかしながら、(25b-c) に対する Pair-List に解釈は許容される。

- (25) (Martín 2003: (24a); (26); (5)) (for α Group and β Group)
 a. ¿Por qué Juan vino? ‘Why did Juan come?’
 b. ¿Por qué cada parte firmó el acuerdo? [*Pair-List]
 ‘Why did each side sign the agreement?’
 c. ¿Por qué piensas que cada parte quería firmar el acuerdo? [*Pair-List]
 ‘Why do you think that each side wanted to sign the agreement?’



この問題は、付加語 Wh 要素 (*por qué*) に対して (25d) の構造を想定することにより打開されると思われる。当該付加語 Wh 要素は Cl' に付加した位置に生成され、Spec(wh/Q) へ移動する。Cl' の断片の一つだけが付加語 Wh 要素の原初痕跡 (ti) を支配しているため、Cl' が当該痕跡位置を支配するとは言えない (Cl が付加語 Wh 要素の原初痕跡を C 統御することはない)。つまり、この Cl が Wh 要素 (*por qué*) によるその変項 (ti) の束縛を阻止することはない (同時に、Cl はその変項を適切に束縛する)。これにより、(25a) の適格性が導出される。Spec(Cl) 位置に生成される普遍数量詞 (*cada parte*) が付加語 Wh (*por qué*) の SP (その生成位置) を C 統御するため、(25b) に対する Pair-List の読みが予測されることになる。既に述べたように、Cl' が当該付加語 Wh 要素の痕跡位置を支配することはないため、長距離移動する付加語 Wh 要素の痕跡位置が凍結することはない (痕跡位置が SC として機能する)。つまり、(25c) における Pair-List の解釈が導出されることになる。以下の (26) は、付加語 Wh 要素 (*por qué*) が主語要素の生成位置 (Spec(v)) の C 統御領域 (AspP (あるいは Asp)) に付加した位置、vP に付加した位置) にも生成されることを示す。

- (26) a. ¿Por qué firmó cada parte el acuerdo? [^{wh}Pair-List]
 'Why did each side sign the agreement?'
 b. ¿Por qué piensas que quería cada parte firmar el acuerdo? [^{wh}Pair-List]
 'Why do you think that each side wanted to sign the agreement?'

註

*) 本稿は、日本ロマンス語学会第 44 回大会 (青山学院大学 2006 年 5 月 14 日) における口頭発表の一部を拡張したものである。本稿の匿名レフリーから本稿の理論上の問題点、論文構成上の不備と思われる箇所、さらに誤植等の指摘をいただいた。ここに、謝意を表する次第です。

- 1) C 統御定義として、Hornstein (1995) の定義 (i) を採用する。Hornstein (1995) は、機能的範疇 (functional category) として Agr と D を指定する (主語要素がその Spec 位置に生成される v を含め、その他の範疇が語彙的範疇 (lexical category) と同定される)。本稿では、スペイン語に対して後述する Cl(itic), T, V と P に加え、AgrDO と v の間に生成される Asp の投射を語彙的範疇と想定する。スペイン語の v が機能的範疇と前提される点に留意されたい。

(i) Definition of c-command (Hornstein (1995: 176):
 A c-commands B if and only if every lexical projection that dominates A dominates B.

- 2) (1) と (2) の英語用例は、当該構文における Spec(AgrDO) が SP を構成しないと考えることにより説明される。以下の (ia-b) は、(14) が特定表現を随伴しない普遍数量詞の派生に適用されることを示す。特定表現として、(ia) の PP (*de los pacientes*) と (ib) の再述接語 (*lo*) が同定される。

- (i) a. ¿Quién examinó a cada uno de los pacientes? [^{wh}Pair-List] (Jaeggli 1991: (53))
 'Who examined each one of the patients?'
 b. ¿Quién lo examinó a cada paciente? [^{wh}Pair-List] (Jaeggli 1991: (55a))
 'Who examined every patient?'

3) (i) における目的語普遍数量詞は、義務的に Neg の作用域内にある。これは、Neg' に支配された普遍数量詞の SP が凍結しないことを物語る。

(i) John didn't eat everything. (Hornstein 1995: 170, (69))

参考文献

- Aoun, Joseph and Yen-hui Audrey Li (1993) *Syntax of Scope*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Franco, Jon and Susana Huidobro (2003) "Psych Verbs in Spanish Leista Dialects," *Linguistic Theory and Language Development in Hispanic Languages*, ed. by Silvina Montrul and Francisco Ordóñez, 138-157, Cascadilla Press, Somerville.
- Gutiérrez Rexach, Javier (1995) "The Scope of Universal Quantifiers in Spanish Interrogatives," *Grammatical Theory and Romance Languages*, ed. by Karen Zagona, John Benjamins, Amsterdam.
- Hornstein, Norbert (1995) *Logical Form: From GB to Minimalism*, Blackwell, Oxford.
- Hornstein, Norbert (1999) "Minimalism and Quantifier Raising," *Working Minimalism*, ed. by Samuel David Epstein and Norbert Hornstein, MIT Press, Cambridge, MA.
- Jaeggli, Oswaldo (1988) "ECP Effects at LF in Spanish," *Advances in Romance Linguistics*, ed. by David Birdsong and Jean-Pierre Montreuil, Foris, Dordrecht.
- Jaeggli, Oswaldo (1991) "Head Government and LF-Representations," *Logical Structure and Linguistic Structure: Cross-Linguistic Perspectives*, ed. by C.-T. James Huang and Robert May, Kluwer, Dordrecht.
- Martín, Juan (2003) "Against a Uniform Wh-Landing Site in Spanish," *Theory, Practice, and Acquisition: Papers from the 6th Hispanic Linguistic Symposium and the 5th Conference on the Acquisition of Spanish and Portuguese*, ed. by Paula Kempchinsky and Carlos-Eduardo Piñeros, Cascadilla, Somerville, MA.
- Rizzi, Luigi (1990) *Relativized Minimality*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Stroik, Thomas (1996) *Minimalism, Scope, and VP Structure*, SAGE Publications, London/New Delhi.
- Uribe-Etxebarria, María (1992) "On the Structural Positions of the Subject in Spanish," *Syntactic Theory and Basque Syntax*, ed. by J. A. Lakarra and J. Ortiz de Urbina, ASJU, Denostia.
- Uribe-Etxebarria, María (1995) "On the Nature of SPEC/IP and its Relevance for Scope Asymmetries in Spanish and English," *Contemporary Research in Romance Linguistics*, ed. by Jan Amaste, Grant Goodall, Mario Montalbetti, and Marianne Phinney, John Benjamins, Amsterdam.
- Zanutini, Raffaella (1997) *Negation and Clausal Structure: A Comparative Study of Romance Languages*, Oxford University Press, Oxford.
- Zubizarreta, María Luisa (2001) "The Constraint on Preverbal Subjects in Romance Interrogatives," *Subject Inversion in Romance and the Theory of Universal Grammar*, ed. by Aafke Hulk and Jean-Yves Pollock, Oxford University Press, Oxford/New York.